

# 多摩川源流大学

## の取り組み

〜都会ではできない経験を〜

こすげむら  
小菅村

甲府

源流大学のフィールドである小菅村は平坦な畑はほとんどなく大きなトラクターは入れません。このような厳しい環境の中では「手作業」での農業がメインとなります。

1年目の基礎コースでは基本的な農作業の手順、鍬や鎌の使い方等、小菅村に適した農業を学びます。2年目の応用コースでは農家に弟子入りし、一緒に作業することで大学の実習だけでは体験できない源流域での農業の大変さや生活の知恵などを体験できます。

1年間の最後には村で活動報告会を行い、村の皆さんに学んだことや感じたことを発表します。

### 学べること・・・

多摩川源流大学（以下、源流大学）とは都市部の複数の大学が行っている体験型人材育成プログラムの名称です。「食べ物や暮らしの根源を体と心で実感し、生きるための実践力をつける」ことを目的として、平成18年に文部科学省の支援を受けて始まり、廃校となった小菅小学校白沢分校を活用し開校しました。年間で延べ2千人を超える学生が活動に参加しています。また、学生のみならず一般の方が参加できるプログラムも行っています。

### 多摩川源流大学とは



〜農業体験の様子〜



廃校となった小菅小学校白沢分校を活用した源流大学校舎



## ～源流放課後の会～

源流放課後の会は、「もっと小菅村で活動したい」「村の人から多くのことを学びたい」と学生が自主的に、田んぼの活動以外にも村内の畑を借りて農業やワサビ田の修繕等の幅広い活動を行っています。



収穫したお米は学校給食や村内の神事に活用！

## 耕作放棄地の解消

源流大学では、これまでに小菅村内の28アールの耕作放棄地を開墾して実習で活用しています。また、源流大学の有志で設立した「源流放課後の会」では、35年間も耕作放棄地だった田んぼを村の方々から復元方法を教わり、復活させました。この田んぼは日々学生達に受け継がれ、村の方々と一緒に田植えや稲刈りといった作業を行う交流の場、新たな活動へのきっかけづくりの場となっています。



## 地域のための源流大学

### 活動報告会

毎年開催する活動報告会では多くの住民が聴講しています。学生達から農業実習の感想や村の伝統文化、食文化に係わるユニークなアイデアなど農山村の活性化に向けた様々な提案があります。小菅村の方々にとっては普段気付かない村の自然的・文化的価値や魅力を再認識する機会となり、村づくりに向けた良い刺激になっています。



### 住民講師

源流大学の实習では実習内容に応じた住民の方々が生徒となります。はじめは「何を教えたら良いかわからない」と遠慮がちな様子でしたが「畑仕事など学生とともに作業して、逆に勇気づけられた」「若返った気がする」などの声もあり、地元住民たちの活性化に繋がっています。



## 小菅村の新名物「じゃがいもアイス」



小菅村の農産物を利用することをテーマに開発されたスイーツが「じゃがいもアイス」です。源流大学の学生が地元の方々と一緒に栽培した無農薬・無化学肥料のじゃがいもを使用しています。「キタアカリ」「シャドークイーン」「ノーザンルビー」小菅村在来種である「富士種」といった4種類のアイスがあり「道の駅こすげ」で販売されています。



## 今後の源流大学の展開

現在、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で源流大学の学生向け実習は中止を余儀なくされていますが、感染防止対策を徹底した社会人向けの新たなプログラムを展開し、有志の生徒を受け入れていきます。また、源流大学では講座を自分で作ることができます。自分の頭の中にある「講座にしてみたいこと」をイメージしてエントリーシートに記入してみてもいいでしょうか？あなたのイメージが地域の発展に繋がるかもしれません。